

☆☆☆活動紹介☆☆☆

2022年10月2日(日)、4人の講師の先生をお迎えしてJDDnetセミナー in えひめ2022が開催されました。それぞれの立場における発達障害児・者の自立支援の在り方について、特別支援教育・不登校支援の観点から講演していただきました。

	内容	講師
A	社会的自立を実現していくために学校教育期に取り組むこと	花熊 暁 氏 (愛媛大学名誉教授)
B	発達障害と不登校	市川 宏伸 氏 (JDDnet 理事長、医師)
C	許してくれた子どもたちが教えてくれたこと	吉田 慎吾 氏(愛媛大学客員教授) (学校法人松山学院高等学校長)
D	フリースクールの在り方と自立に向けた支援	孕石 修也 氏 (フリースクール「エリート」主宰)



学校教育では、長期的な観点に立った「今」の支援が必要。「この子が社会に出るときに備えて、今、どのような力を育てておかなければならないか」を見据える。過去→今→未来の時間軸の中で、自分のことを考える力を育てる。

現在の不登校は、半分以上が発達障害を根底に持っているとも言われている。対人関係、コミュニケーションに課題があり、集団適応が難しく不登校になる。また、特別支援教育(個に応じた教育)理念の欠如が引きこもりの長期化を招いている。

発達障害児・者の自立支援について

時代背景を押さえておくことが大切。不登校の生徒には何度も家庭訪問し、時間をかけて信頼を得てきた。①あいさつ ②掃除 ③読書 ④人のために動ける(社会貢献)・・・この4つができる生徒を育てようと奮闘した。

平日昼間の学校以外の居場所・学び場が必要。思考の出発点を子どもたちの「幸せ」から「自由」へ!「個々が自由を感じ、他者の自由のために行動し、巣立っていくこと」を理念とし、無気力な状態から自由で満たされていくまでを段階的に伴走している。



セルフアドボカシースキル……とは?



花熊先生の講演の中に出てきた『セルフアドボカシースキル』について説明します。セルフアドボカシースキルを育てることが、ここ数年、重視されるようになってきました。

セルフアドボカシー：自分の権利を守る力(自己権利擁護)

自己決定権

Nothing about us without us! (私たち抜きに私たちのことを決めない)

スキル

自己理解

自分に出来ること・得意なこと、
困難なこと・支援が必要なことの理解

援助を
求める力

必要な場面で援助を求めることは恥ずかしいことではなく、
よりよい成果を上げるために必要なことへの理解

つまり、**セルフアドボカシースキル**とは、…**自己の可能性を最大限に発揮するために必要な力**
(自己理解・自己受容・自己権利擁護)



社会的自立を実現していくためにしてほしい経験、育てたい力

1. 肯定的な人間関係の中で、他者の存在意義を知る。
2. 年齢に応じた社会的意識と行動を身に付ける。
* あいさつ * 感謝と謝罪のしかた * 自分から進んでしようとする態度 * 他者のために役立つとする気持ち ……など、社会人としての基本
3. 自分自身について知り、学習や社会的行動の「方略」を身に付ける。
4. 「時間軸の中の自分」を考える力を育てる。

